

令和5年度第2回 堺市子ども青少年局指定管理者候補者選定委員会

会議録

- 開催日時 : 令和5年9月25日(月) 9時30分～12時15分
- 会場 : 堺市役所 本館地下1階 多目的室
- 出席委員 : 委員長 永田 守 (弁護士)
(五十音順) 委員 今西 幸蔵 (高野山大学 特任教授)
委員 堂本 雅也 (京都橘大学 非常勤講師)
委員 西村 智子 (公認会計士・税理士)
委員 吉岡 洋子 (関西大学 教授)
- 事務局 : 子ども企画課 課長 安田 佳代 外
- 施設所管課 : 子ども育成課 課長 藤原 真由美 外
- 傍聴人数 : 0人
- 案件名 : 案件1 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る書類審査について
案件2 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る面接審査の基本質問について
案件3 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る面接審査について
案件4 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者の選定結果について
- 議事要旨 :
 - (1) 開会
事務局より開会宣言。
 - (2) 定足数の確認
出席者5人、欠席者0人で、会議の開催に必要な定足数を満たしていることを確認。
 - (3) 応募団体からの接触等の有無確認
応募団体から委員長、委員及び市職員に対して、本件応募について、自己の有利となる目的のために、接触等の働きかけがないことを確認。
 - (4) 配付資料の確認
配付資料一覧により確認。
 - (5) 本日の予定確認
事務局より以下内容を確認・伝達。
 - ・案件1～案件4について審議すること。
 - ・書類審査及び面接審査を実施し、採点結果に基づき、指定管理者の候補者を選定すること。
 - ・会議について、すべて会議録を作成し、非公開部分を除き、後日、堺市ホームページ

ージで公開すること。

(6) 案件審議

案件 1 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る書類審査について

- ①応募書類の確認結果、応募団体の概要、応募団体の企画提案内容の概要について、所管課から説明。
- ②応募書類の確認結果、応募団体の概要、応募団体の企画提案内容の概要について、質疑等なし。
- ③事務局から選定審査方法及び仮採点の方法について説明を行い、各委員による仮採点実施。

案件 2 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る面接審査の基本質問について

- ①面接審査の流れ及び基本質問項目（案）について、所管課から説明。
- ②面接審査の流れ及び基本質問項目（案）について、質疑等なく、原案のとおり承認。

案件 3 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者選定に係る面接審査について

①A 団体の面接審査実施

A 団体入室後、応募書類をもとに、A 団体による 10 分間のプレゼンテーションを実施。プレゼンテーション後、各委員から約 20 分間の質疑応答。

ア 永田委員長より

質疑

- 利用者ニーズを踏まえ、今の時代の青少年により一層利用される施設とするために、力を入れるべき取組や求められる機能について、どのように考えているか。

⇒A 団体回答

利用者ニーズとして健康促進、文化的活動、子育て、多世代交流等、社会的ニーズとして異年齢の交流、安全な活動の場、非認知能力の向上があると考えている。そういった中、子どもたちが ICT に触れる機会を提供できるよう検討している。

- 「市として求める目標」の達成に向けた具体的方策の提案における、事業の狙いや背景、ニーズへの対応等、検討したことはどのようなものか。

⇒A 団体回答

令和5年の4月から8月の利用実績をコロナ前の令和元年度の同期間と比較した際、団体利用が戻っていないという課題が見えたため、一般団体に利用してもらえるような機会を設けたいと考えての提案をしている。

○キャッシュレスについて、予定している導入手法、機材費や手数料等はどのようなものか。

⇒A 団体回答

世間で利用が多いPay Payを考えているが、具体的には確定していない。

○新型コロナウイルス感染症の影響により、赤字事業があることをどのように捉えているか。また、赤字事業がある中で、今回提案のあった収支計画の確度については問題ないか。

⇒A 団体回答

新型コロナウイルス感染症の影響により施設の休館を余儀なくされた中、日程変更等の対応は行ったが効果はなかった。今回提案の収支計画については、市からいただく指定管理料の中で施設の維持管理に努め、赤字になったとしても団体側で責任をもって対応する。

○貴団体の言うユース世代とは、何歳から何歳までを示すものか。

⇒A 団体回答

堺市の指定管理施設としては、10歳から25歳までを示すもの。

イ 今西委員より

(ア) 質疑

○青少年が集まらないことに対して、全国的には集まっているところもあるが、どのように理解し、どのような問題意識を持っているか。岩手県や宮城県、東京、島根（ユタラボ）、山口（カタリバ）等では、OBが集まって様々な取組を行っているが、どのように考えているか。

⇒A 団体回答

青少年が集まらないことについては、1人で生活をしていくことが昔より簡単になっていることが1つの要因だと考えている。地域の力を信じ、地域の若い世代を活用できる機会を検討していく必要があると考えている。

○日曜の開館時間が 21 時ではなく 17 時までの理由は。

⇒A 団体回答

施設の維持管理上、月曜日の閉館日に修繕等の対応を考えているが、日を跨ぐ対応が必要な場合を考慮し、日曜日を 17 時までとしている。

○e スポーツやドローンの提案について、実施方法はどのように考えているか。

⇒A 団体回答

ドローンサッカー等を検討している。トイドローンを使用するため、小規模かつ屋内の全天候型で実施できると考えている。

○自主事業として計上している金額が大きいですが、費用の目算は立っているのか。

⇒A 団体回答

令和 5 年度の実績を含めて考えているが、地域の課題に対して新たなプログラムも実施する必要があると考えている。費用については、これまでの経験を踏まえて算出したもの。

(イ) 意見

将来の子どもたちが郷土を学べるものと考えてほしかった。また、ヤングケアラーや子ども食堂に関する事業提案がなかったことが残念だった。

ウ 堂本委員より

質疑

○社会教育について、専門の資格（社会教育士）を持ったスタッフが居るのか、今後取得予定があるのか、どちらか。取得する場合は、養成課程か主事講習のどちらか。

⇒A 団体回答

今後取得するように計画している。

エ 西村委員より

質疑

○提案されているデジタルスタジオの設置及びバーベキュー広場に係る費用については、どの程度を想定しているか。また、その費用については、リースや買取等、どのように考えているか。

⇒A 団体回答

デジタルスタジオの設置及びバーベキュー広場については、それぞれ約 100 万以内に収めたいと考えている。施設に残していくことを課題と考えているので、それぞれ購入を検討している。

○これまでの収支決算を見る中、今後も自主事業が赤字になり、収支決算に影響が出た場合、法人本体にも影響が出ると思うが、どのように考えているか。

⇒A 団体回答

現時点の回復具合を考慮しながら、施設の改修等を進めていきたい。

オ 吉岡委員より

質疑

○こども基本法の施行に伴い、子どもの意見聴取に関する事業を期待していたが、何か反映しようと考えていることはあるか。

⇒A 団体回答

常にアンテナを張り、スタッフへの研修等を実施していく必要があると考えている。

②B 団体の面接審査実施

A 団体退室後、B 団体入室。応募書類をもとに、B 団体による 10 分間のプレゼンテーションを実施。プレゼンテーション後、各委員から約 20 分間の質疑応答。

ア 永田委員長より

質疑

○利用者ニーズを踏まえ、今の時代の青少年により一層利用される施設とするために、力を入れるべき取組や求められる機能について、どのように考えているか。

⇒B 団体回答

若者の構成人数が少なくなっているうえ、人とのつながりが希薄になっている。人とのコミュニケーションの場となるような施設に

することを考えている。

- 「市として求める目標」の達成に向けた具体的方策の提案における、事業の狙いや背景、ニーズへの対応等、検討したことはどのようなものか。

⇒B 団体回答

施設の新たな利用方法の提案を考えている。利用者のリピート率を向上させ、顧客満足度を向上させるような企画を考えている。そのため広報活動の強化に要する費用を収支計画に計上している。

- 青少年を対象とした教室は、現在どの程度実施しているか。

⇒B 団体回答

毎月約 650 教室を実施するうち、25 歳までに対応した教室は約 150 教室。ひきこもりの方を対象とした教室は約 50 教室。

- 利用のない部屋の効率的な活用を進める場合、利用者は青少年に限らないという認識でよいか。また、利用のない部屋の活用については、どのように周知するのか。

⇒B 団体回答

利用がない部屋の活用については、青少年に限らない。告知については、HP や掲示での周知を考えている。なお、利用のない部屋の周知については、前日までに HP で行う。エリアマーケティングをしっかりと行っていきたい。

- 提案内容では、現行の施設の運営と比べて休館日が減り、開館時間が増えているが、法定点検で 2 日程度要する場合、どのように対応することを考えているか。また、総営業時間が増える分の人件費はどのように対応する予定か。

⇒B 団体回答

月 2 回設ける休館日に集約すれば足りると考えており、現状運営している他施設においても、同様の対応で不都合は生じていない。

人件費については、見込んでいる利用増の部分でカバーできると考えている。また、清掃等の自社対応できる部分でも費用を削減でき、万一利用増の目標を達成できない場合は自社で負担することを考えている。

○提案において設定している目標が高いように感じる。目標が高すぎた場合、達成できないという問題が生じうるが、どのように考えているか。

⇒B 団体回答

提案内容は相手方との約束だと考えている。なお、これまで提案してきた事業計画については、ほとんど履行できている。

○キャッシュレス決済について、クレジットカードの手数料は自社負担か。

⇒B 団体回答

利用料の10%がキャッシュレス決済を見込んでおり、提案している予算に組み込んでいる。

○人員配置における常勤スタッフ2名について、適切な人員を配置していくという認識でよいか。また、非常勤スタッフとはパートタイムという認識でよいか。

⇒適切な人員を配置していく。

非常勤スタッフについては、週20時間（主婦層）と週30時間以上（週4～5を想定）の2パターンのパートタイムを考えている。非常勤スタッフ18名のうち、2～3名には館長、副館長の補佐を担ってもらうことを考えている。

イ 今西委員より

質疑

○配置予定の常勤2名の過去の経歴はどのようなものか。青少年の家では、野外活動の経験等が必要だと考えているが、どのように対応していくか。

⇒B 団体回答

スタッフの募集については、これから行う予定だが、学校教育に造詣が深い方を館長・副館長に採用することを考えている。

○青少年の家においては、学校教育の分野ではないことを学べる必要があると考えているが、どのように考えるか。

⇒B 団体回答

大手コンサルタント会社と連携しながら対応を検討していく。

○ヤングケアラーや栄養が適切に摂取できていない児童等の対応に対するコンセプトは、どのように考えているか。

⇒B 団体回答

ヤングケアラーについては、当事者向けの相談窓口を設け、課題を聴き取り、専門機関へどのようにつなげることができるかを考えている。

栄養が適切に摂取できていない児童に対しては、簡単レシピ等の講座を考えている。

○提案のあった収支計画については、非常に高い数字を見込んでいるが、どのように実現することを考えているか。

⇒B 団体回答

サークル活動の支援を検討している。会議室の会議利用以外の活用等、施設利用のない枠を様々な用途として提案し、稼働率の向上を考えている。また、付属品の利用も提案しながらパッケージ利用等を提案することを考えている。

随時、マーケティングを行いながらニーズに応じて、変化させていくことを考えている。

○提案にあるワンストップオーダーメイドサービスとは具体的にどのようなものか。

⇒B 団体回答

施設の予約等の対応にとどまらず、施設の利用についての相談を受けるもの。設備の利用、広報のサポートや提案、利用者のニーズに合わせて提案していきたいと考えている。

○提案にある地域フォーラム等について、どのような具体例があるか。

⇒B 団体回答

引きこもりの専門家やこれまで得た人脈を活用しながら、周辺施設の方々との相互の連携を通じた個別相談会等を検討している。

ウ 堂本委員より

質疑

○提案書の中で「お客様」という言葉を用いている点について、利用者をどのように捉えているか。

⇒B 団体回答

業者、自治体も含め、思いやり、おもてなしを持って接していきたいという、利用者と接する時の会社のポリシーであり、館の利用者をお客様と捉えている。

○連携していくサークル活動等を行っている方々もお客様となる点について、どのように考えているか。

⇒B 団体回答

施設を利用する全ての方々をパートナーと考えている。また、施設を利用される方々が自主的に活動してもらえようような手助けもしていきたい。

○ひきこもりの方については、何歳までの方が支援の対象となるか。40歳以上の方も対象となるか。

⇒B 団体回答

年齢で区別することは考えていない。学校へ行けない方、社会に出ていきにくい方も含め対象と考えている。

エ 西村委員より

質疑

○提案されている区分稼働率を25%アップさせるための具体的方策はどのようなものか。また、空き部屋の効率的な活用（スペースコントロール）について、テレワーク用のスペースであれば、青少年センターはWi-Fiがなく、青少年の家はWi-Fiはあるものの不便な場所にある点について、どのように考えているか。

⇒B 団体回答

テレワークは一例であり、様々な活用を提案しようと考えている。DIY等の創作活動での活用等、個人利用を開拓していきたいと考えている。運用としては、当日もしくは前日の予約とし、多少の割引を考えている。

オ 吉岡委員より

質疑

○施設の運営にあたった、職員配置はどのように考えているか。また、さかい場カフェやひきこもりの方向けの研修において、職員の専門性をどのように担保し、ひきこもりの方への対応はどのように行っていくのか。

⇒B 団体回答

両施設を統括するエリアマネージャーを配置したうえで、それぞれの施設において館長・副館長を配置予定。ひきこもりの方向けの事業等については、既に他施設でも実施しているため、横の連携を取りながら行うとともにひきこもり支援ネットワークの方と連携する予定。また、研修受講による専門性向上も考えている。

③意見交換（比較検討）

ア 永田委員長より

A 団体は、これまで培ってきた青少年活動に対するノウハウが強みだが、提案内容が前例踏襲でしかなかった。

対する、B 団体は施設管理の面には精通しているが、青少年教育に対する理解等が足りないように感じた。

イ 今西委員より

A 団体の提案内容の 1 つである施設の LED 化について、提案内容が矛盾していた。

B 団体の方が安定しているように思うが、ひきこもりの方を対象とした提案ばかりで青少年教育に対する理解が足りないと感じた。野外活動等を中心に考えていく必要があると感じた。B 団体が指定管理者候補者に選定された場合は、非常勤スタッフの中に青少年分野の専門性が高い方を配置していただきたい。

ウ 堂本委員より

子どもや若者が行きたい施設と思えるか、現代の若者の琴線に触れるものかどうかを考えながらプレゼンテーションや質疑応答等を聞いていた。

エ 西村委員より

デジタルスタジオ等の導入、LED の導入を記載しているにもかかわらず電気代が変動していない点は矛盾しており、収支について関心がないと感じた。

オ 吉岡委員より

A 団体の社会教育に対する回答が残念で、勉強不足だと感じた。

B 団体については、ビジョン等はしっかりしており、様々な機関等と連携することを重視していたと感じた。しかしながら、提案における人員配置について、履行できるのかどうか不安である。

④採点

事務局からの注意事項の説明後、各委員による採点。
各委員による採点完了後、事務局により審査表の回収。

案件 4 堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者の選定
結果について

集計結果について、委員長から発表。

総合計得点 1位 B団体：370点、A団体：353点であり、総合計得点が満点
(500点)の60%以上に達しているため、総合評価方式に基づき、得点が最上位
のB団体を堺市立青少年センター及び堺市立青少年の家の指定管理者候補者として選定

(7) 閉会